

この度は、参段昇段審査の機会をお与え下さり、誠にありがとうございました。

野村師範が、昇段審査を楽しみにして下さっていると他の方からお聞きしまして、モチベーションが上がった次第です。

ここ最近、教える立場になる機会に度々恵まれ、合気道とは何か：合気道の魅力は何かと問われることがあるのですが、良い答えを見つけました。それは、

「人体の不思議、神秘を駆使して行う武道」  
です。

具体的に思うところを書きますと、

「身体の、体幹の使い方の結果の動きが技になる：良い使い方をするためには精神が整っていないければならない：」  
ということであり、

このことを身をもって教え込んで下さったのは他でもない野村師範、そして遠藤師範なのです。

野村師範から教わる身体の使い方は、

「ホンマもん」

だと非常に思います。

ありがたいことに、色々な方と稽古をさせて頂く機会がありますが、どの方にもほぼ、野村師範から教わった身体の使い方は通用するものがあり、驚かれ、中には熱心に聞いてこられる方もいらっしゃいます。

野村師範とは、私が京大合気道部に所属したことがきっかけなのですが、合気道との出会いの時からこのようなホンマ蒙の師範にご指導頂けたことが幸せに思えてなりません。

そして、遠藤師範の稽古は、身体を適切に使える状態にするためのベース作りの助けとなるものであり、普段の道場での稽古でも役立つので、決して対立するものではないと思います。実際に、遠藤師範から教わった感覚が非常に役立っているという実感があります。

そのうちの一つに、相手のありのままを感じそれに合わせていく感覚というものがあります。合気道には欠かせないものであり、日常生活に於いても大変役立つものだと思います。

しかしながら合気道をしている人の中にも、せっかくこの感覚を稽古を通じて鍛えているのに、他人のことを確かめもせず決めつけてそれに基づいた言動を行う方が少なからずおります。本当に恥ずかしいことです。良い稽古が積めていないのだなあと、思わず気の毒に思ってしまうます。

自分はそうはならぬよう、反面教師したいと思います。

最後になりますが、野村師範をはじめ心を尽くして教えて下さった師範・先生方そして道場の皆様、お世話になった全ての皆様、ありがとうございました。

段位に恥じぬよう、これからも努力精進する所存です。